語　研　便り

大東文化大学　語学教育研究所広報（2022 年 12 月）

研究発表会のお知らせ

2022 年度、第 4 回研究発表会を下記のとおりオンラインで開催いたします。
ふるってご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

記

日　　時 ： **2022 年 12 月 12 日(月) 午前 10 時 30 分～**

参加方法 ： 本発表会は学内限定で Zoom を使用して開催します。
Zoom の URL、ミーティング ID 等は別途メールでお知らせします。
ご不明な点は、語学教育研究所までお問い合わせください。

①発表者 ： **三上　傑 先生（外国語学部 英語学科）**

題　目 ： 言語変異と言語変化：
統一的アプローチの可能性を探る

②発表者 ： **野澤　督 先生（外国語学部 英語学科）**

題　目 ： デュパティの『イタリアに関する書簡』における
ローマの描写からみる 18 世紀旅行記ジャンルの変遷

③発表者 ： **小野寺 賢一 先生（外国語学部 英語学科）**

題　目 ： 抽象的な作者をめぐる
リュリコロギーと審級理論のあいだの論争について

※概要は次ページに掲載しています。

①発表者 ： **三上　傑 先生（外国語学部 英語学科）**

題　目 ： 言語変異と言語変化：
統一的アプローチの可能性を探る

概　要 ： 生成文法理論では、自然言語の普遍性と多様性を捉えるための理論的枠組みとして「原理とパラメータ・アプローチ」が採用され、これまでに様々なパラメータが提案されてきた。しかしながら、その多くは、共時的観点か通時的観点のいずれかによってのみ妥当性が立証され、両観点からの十分な検証がなされるには至っていない現状がある。本発表では、より説明力の高い言語理論の構築に向けた、言語変異と言語変化を統一的に捉えるアプローチの可能性について考察したい。

②発表者 ： **野澤　督 先生（外国語学部 英語学科）**

題　目 ： デュパティの『イタリアに関する書簡』における
ローマの描写からみる 18 世紀旅行記ジャンルの変遷

概　要 ： デュパティ（1746-1788）の『イタリアに関する書簡』（1785）の文学史的位置づけについて考察する。18 世紀には旅行記記述の性格が変化したと言われている。シャトーブリアンはこの旅行記のうちにルソー的なものを感じ、そこにロマン主義的性格の萌芽を見ている。本発表ではこの指摘を検証することを目的とし、文学史的視点からデュパティが描いたローマについて報告する。

③発表者 ： **小野寺 賢一 先生（外国語学部 英語学科）**

題　目 ： 抽象的な作者をめぐる
リュリコロギーと審級理論のあいだの論争について

概　要 ： ドイツ語圏では近年、抒情詩の理論的な究明がさかんに試みられている。この研究動向の中心にいるのは DFG プロジェクト「リュリコロギー」（2016―2020）の参加者たちであり、その議論にロシア文学研究者シュタールを中心とする研究グループが加わっている。本発表では、「抽象的な作者（abstrakter Autor）」の概念をめぐり、両陣営のあいだでくりひろげられた論争を整理して紹介する。

以上

［問い合わせ先］語学教育研究所 E-mail : daitogoken@gmail.com